



## 野間小だより

NO. 3

令和8年5月28日

## 「本物の思考力」と「記号接地(きごうせっち)」

先日ある研修会に参加し、AIと思考力についての講演を聴きました。そこで私が学んだこと・感じたことを、簡単にご紹介したいと思います。

近年は生成AIなどの技術が急速に進化し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。キーワードを入力すれば、AIがまるで人間のように何でも教えてくれます。でも、人間にはAIにはない「強み」があります。「本物の思考力」です。

認知科学の言葉に「記号接地」というものがあります。「言葉(記号)」と「現実の体験や感覚」が、頭の中でガッチリと結びつくことを言います。例えば、AIは「リンゴは赤くて甘酸っぱい果物」と完璧に説明できます。でもAIはリンゴを食べたことも触ったこともなく、言葉が現実と結びついていないのです。しかし、子どもたちは違います。本物のリンゴを見て、触って、かじって、「冷たい」「シャキシャキする」「酸っぱい」と、五感を使って感じ取ります。このリアルな体験があって初めて、言葉に命が吹き込まれ、自分の知識になります。これを「記号接地」と言います。

現代の子どもたちは、画面を通して多くの知識を得ています。しかし、泥のぬるぬるした冷たさ、雨上がりの土の匂い、一生懸命走ったときの息苦しさなど、実体験が不足すると、実感を伴わないただの「文字」としての存在になってしまいます。例えば算数で「 $1/3$ と $1/4$ のどちらが大きいかピンとこない」子がいますが、多くは「言葉(記号)」と「現実の体験や感覚」の合致ができていないことが原因になっているそうです。

知識の量では、人間はAIを超えることは困難です。これからの時代を生き抜くには、五感で感じたリアルな体験を土台にして、自分の頭で「なぜだろう」と深く考える力が重要になってきます。ご家庭でも、料理の手伝いや自然の中での遊び、日々の会話を通じて、子どもたちの五感をたくさん刺激してあげてください。野間小学校でも、人との関わりや実体験を重視した授業づくりに一層励んでまいります。子どもたちの「本物の思考力」を育むために、「記号接地」意識してみませんか。

校長 榎原 清人



## 行事予定



1日(月)	眼科検診 ⑤⑥水泳 (5,6年)	17日(水)	6年生13:40下校
2日(火)	①②水泳 (1,2年) ③④水泳 (3,4年)	18日(木)~19日(金)	6年修学旅行
3日(水)	⑤防犯教室	22日(月)	⑤⑥水泳 (5,6年)
5日(金)	⑥クラブ	23日(火)	①②水泳 (1,2年) ③④水泳 (3,4年)
8日(月)	⑤⑥水泳 (5,6年)	24日(水)	お話し会
9日(火)	①②水泳 (1,2年) ③④水泳 (3,4年)	26日(金)	⑥委員会





3日(金) クラブ  
7日(火)～9日(木)  
40分授業5時間14:25下校  
個人懇談会

10日(金)～16日(木) 5時間授業  
17日(金)終業式

## 砂の造形

5月15日(金)2・3時間目に、砂の造形を行いました。天気に恵まれ、青空のもと、みんな楽しく活動しました。この日のために、6年生がリーダーとして設計図や各学年の役割を考え、当日も中心となって作成しました。どの色の作品も素晴らしいものになりました。



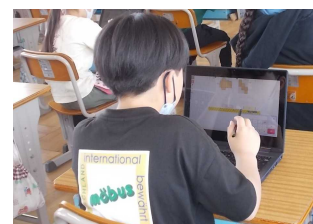
## 水泳指導

今年度の水泳授業が始まりました。5月18日(月)に5・6年生、19日(火)に1～4年生が1回目の授業を行いました。どの学年の児童も楽しそうに水泳の学習に取り組んでいました。6月に残り3回の授業を行います。



## A Iドリル

毎週火曜日の朝の時間帯(8:20～8:35)に、A Iドリルを使って算数の学習に取り組んでいます。この時間以外にも様々な場面でA Iドリルを活用し、学力の向上を図っていきます。



野間小HPでは、野間小だよりでは紹介できなかった行事や授業の様子もご覧いただけます。ほぼ毎日更新していますので、是非ご覧ください。

こちらから→

